

令和7年度 学校関係者最終評価

大阪市立大正西中学校 学校協議会

1 全体を通じた中間評価についてのコメント

各先生方の工夫、情報共有、対策等により学校全体として大変落ち着いており、人として大切なことの1つと思われる「あいさつ」もきちんとできていると思います。

数%の上下はあるものの全体として少しずつ目標に対する取り組みの成果が表れている、数値も安定してきていると感じた。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとのご意見

【安全・安心な教育の推進】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を83.8%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- 年度末の校内調査において、「自分にはよいところがある」の項目で肯定的に答える生徒の割合を前年度(82.3%)より向上させる。
- 年度末の校内調査において、「将来のこと（進路）や生き方について考えたことがある」の項目で肯定的に答える生徒の割合を前年度(87.9%)より向上させる。
- 年度末の校内調査において、「困ったときに相談できる先生がいる」の項目で肯定的に答える生徒の割合を前年度(87.2%)より向上させる。
- 定期的（年2回以上）の避難訓練や防災訓練を通して防災意識を毎年高め、地域とともに歩む防災・減災計画に参画する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を35.7%以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 中学生チャレンジテストにおける数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。

学校園の年度目標

- 年度末の校内調査において「まじめに授業に取り組んでいる」の項目で肯定的に答える生徒の割合を97.5%より向上させる。
- 食育を推進し、年度末の校内調査において「朝食を毎日食べている」に当てはまらない生徒の割合を9.4%より減少させる。
- 調べ学習や読書活動など主体的な学習意欲を高めるため、昼休みの図書館開館を原則5回とし、昼休みの図書室利用者数を平均15名以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を96%以上にする。

学校園の年度目標

- ICT機器の整備と活用を推進し、授業を中心に、すべての学年や学級で生徒がICT機器を活用した活動を行う。
- 年度末の校内調査において、「学校では、命の大切さや社会ルールについて学ぶ機会が多い」の項目で肯定的に答える生徒の割合を97.5%より向上させる。
- 年度末の校内調査において、「家で学校の授業の復習をしている」の項目で肯定的に答える生徒の割合を41.1%より向上させる。

いじめについて、その他の不登校や食育などの人としてどうあるべきかという人間性を育む教育は学習以上に大切で、授業や学級・学年・学校全体で話し合う機会、共有することを丁寧に行ってほしいと思います。

3 今後の学校園の運営についてのご意見

朝食アンケートの実施期間で「何も口にしていない」生徒は0にしたいと思います。この件は学校だけでなく、地域とともに考えていけたらなと思います。

少子化問題が根本にあり公立学校も選択制になったこともあり競争意識・危機意識をもって学校運営をしていかなければ残れない時代になったと思います。

学校の将来を見据え、学校の魅力や特徴を明確にし、伸ばして地域の子ども達はもちろん他からも選んでもらえる学校づくりに取り組んでもらいたいです。